

➤ 輸送の安全に関する基本的な方針

社是の『安全第一』に基づき

1. 輸送の安全確保が事業経営の根幹であることを深く認識し、輸送の安全の確保が最も重要であるという意識を全社員に周知徹底する
2. 「安全運転の基本8則」「危険予測10則」を完全に実施する
3. 会社組織全体で輸送の安全に関するPDCAサイクルを回すことにより、たえず安全性の確保及び向上に努め、陸上交通輸送機関としての社会的責任を果たす
4. 統計的な考え方や数値による事実のチェックを重視し、マネジメント並びに全社員に対するフィードバックを通じて絶えず改善を行い安全を確保する
5. 輸送の安全に関する内部監査を実施し、是正措置を講じると共に、安全管理体制の継続的改善を実施する
6. 関係法令等を遵守する
7. 輸送の安全に関する情報について積極的に公表する

➤ 輸送の安全のために講じた措置

『安全大会の開催（2025年2月～2026年2月実績）』

過去の事故検討を始め、取り組みの結果発表や講師を招いた安全教育など各拠点年間2回を目安に運輸安全マネジメント会議を包括する形で開催しています。

2025年2月8日（土） 神戸営業所

2025年7月5日（土） 栃木営業所

2025年7月12日（土） 千葉営業所

2025年7月26日（土） 兵庫営業所

2025年8月2日（土） たつの営業所、愛知営業所

2025年8月8日（金） 山口東営業所、防府営業所

2025年8月9日（土） 本社営業所運輸部門、本社営業所重機部門、岡山営業所、長崎営業所、広島営業所、

2025年8月12日（火） 北九州営業所、

2025年8月17日（日） 雲仙営業所、南島原営業所

2025年8月18日（月） 県央営業所、

2025年8月23日（土） 香川営業所、茨城営業所

2025年9月13日（土） 福岡営業所、北九州営業所重機回送部門  
2025年9月20日（土） 山梨営業所  
2026年1月5日（月） 福岡営業所、県央営業所、山口東営業所、防府営業所、  
北九州営業所、兵庫営業所、岡山営業所、広島営業所  
2026年1月17日（土） 千葉営業所、栃木営業所  
2026年1月24日（土） 愛知営業所  
2026年1月31日（土） 茨城営業所

➤ 内部監査実施の目標

愛知営業所、静岡営業所、山梨営業所、雲仙営業所、県央営業所、長野営業所、  
千葉営業所、茨城営業所、栃木営業所、長崎営業所、本社営業所、香川営業所、  
神戸営業所、石川営業所、岡山営業所、兵庫営業所、広島営業所、防府営業所、  
山口東営業所、北九州営業所、福岡営業所、たつの営業所、仙台営業所、郡山営業所、  
南島原営業所

➤ 輸送の安全に関する目標

- パトロール・ドラレコの映像確認による社則違反指摘の減少

社内人員による運行ルートのパトロールを強化し、社内で規定した安全運転の基本社則違反を減少させることを目標としています。社内規則の主なものとしては第一通行帯走行や駐車時の歯止めなどに加え、道路交通法に準じたものを含めた約 10 項目を掲げています。

2020年6月～2021年5月	指摘率	1.77%
2021年6月～2022年5月	指摘率	1.82%
2022年6月～2023年5月	指摘率	1.53%
2023年6月～2024年5月	指摘率	1.35%
2024年6月～2025年5月	指摘率	1.00%
2025年6月～2026年2月	指摘率	14.69%

パトロールの強化とそれによる指導は今後も継続してゆく方針です。

➤ 自動車事故報告規則第 2 条に規定される事故

- 1件（2025年1月から）

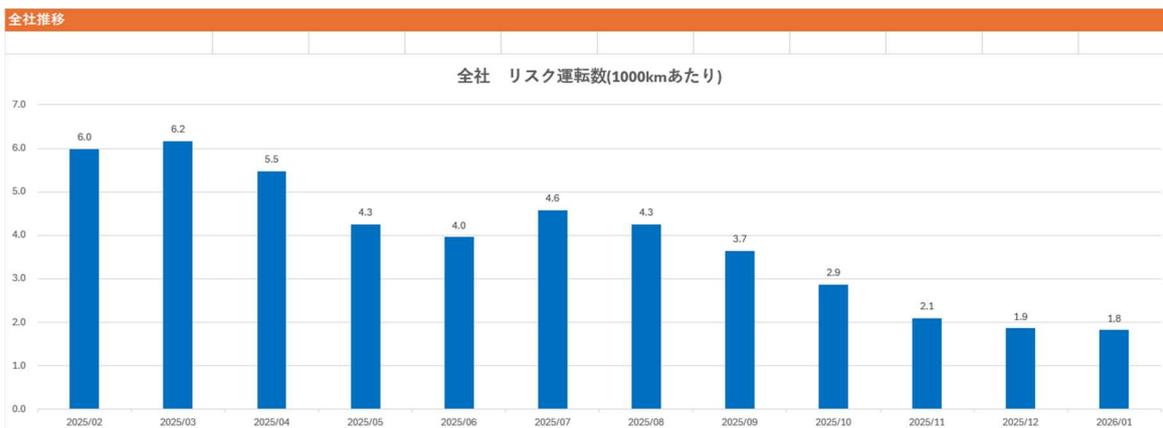
➤ 2024年と2025年の平均燃費の比較(車種別)

車種	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
ユニック	-9.62%	+7.43%	-14.21%	-1.83%
ダブルトレーラー	-6.36%	+0.53%	-1.47%	+1.49%
シングルトレーラー	+0.31%	-2.08%	-8.57%	-1.48%
4Tトラック	+6.67%	+18.19%	+9.17%	-2.57%
15Tトラック	+17.96%	-0.06%	-0.10%	+0.48%
全体	+8.96%	+24.01%	-15.18%	-3.92%

※上記の割合(%)は2024年を基準に比較した2025年の伸び率を示しております。  
 ふんわりアクセルなど制動をコントロールすることで自動車事故が減少するというデータから、指導の効果を見るためにその結果としての燃費を確認しています。  
 夏に下がった燃費効率が第4四半期では少し改善しています。

➤ AIドライブレコーダーによるリスク運転数の推移

吉田海運では、事故発生時の証拠や危険運転検知時の指導に役立つ資料としてAIドライブレコーダーを導入しています。このドライブレコーダーは、乗務員本人だけでなく他の乗務員の危険運転の映像を記録・確認できるため指導に活用しています。目的は安全意識の向上と危険運転や事故の件数の減少を促進することです。



危険運転検知数 (1000kmあたり)

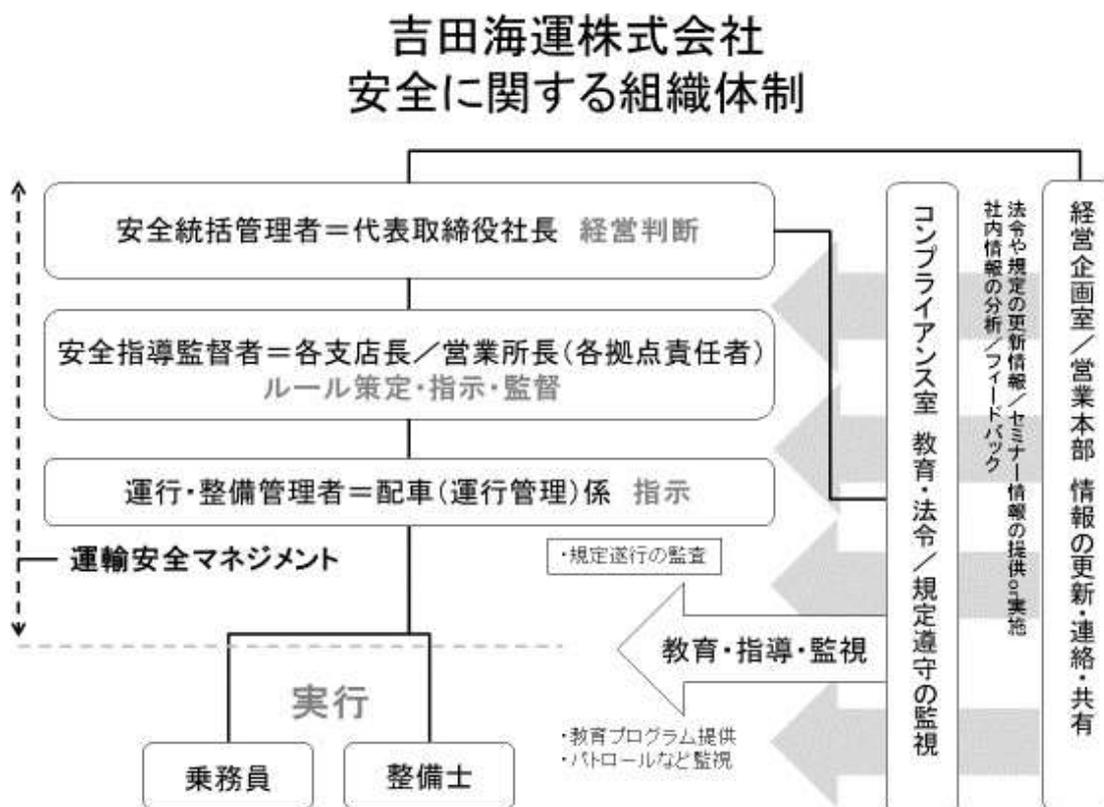
月	2025/02	2025/03	2025/04	2025/05	2025/06	2025/07	2025/08	2025/09	2025/10	2025/11	2025/12	2026/01	危険運転別合計
急加速	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
急減速	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
急ハンドル	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.5
一時不停止	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6
速度超過	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4
車間距離不足	0.7	0.7	0.7	0.6	0.5	0.5	0.6	0.4	0.4	0.3	0.3	0.3	6.0
脇見	5.0	5.2	4.6	3.5	3.3	3.9	3.5	3.1	2.4	1.7	1.5	1.4	39.1
急後退	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2
月別合計	6.0	6.2	5.5	4.3	4.0	4.6	4.2	3.7	2.9	2.1	1.9	1.8	

※設置台数668台 (2026年2月26日時点)

上記の数値は吉田海運全体のトラック・トレーラーに設置しているAIドライブレコーダーが1000kmあたりで検知した危険運転数です。

ドライバー自身で自分の記録映像を確認出来るようになったこともあり危険運転の検知数は減少してきています。

➤ 輸送の安全に係る組織体制



以上